



すすむし

Vol. 6 No. 1

倉敷昆虫同好会

July 1956

目 次

倉敷のコガネムシ相 (1)	小野 洋	1
新見市草間町産の蝶二・三について	青野 孝昭	1
おとしぶみ		
クروب山のメダカミキリは ニセアリモドキカミキリ	}	小野 洋 3
クワバメシジミの最終羽化	赤 枝 一 弘	3
西大寺のヒオドリシジミ	赤 枝 一 弘	3
阿哲缺ヒビナガロバネカミキリの1種採集	小野 洋	3
オオムラサキ幼虫を臥牛山で採集	青野 孝昭	3
黒田でウラゴマダラシジミ	若 林 正 史	4
倉敷附近よりミドリシジミの多産地を発見	青野 孝昭	4
君の名は	T . T	4
'56年度黒田のウスイロとウラジロ	青野 孝昭	5
ウラヤンとウラゴマダラの再記録	青野 孝昭	5
ウラナミシキノメを黒田で記録	青野 孝昭	5
阿哲缺採集記	若 林 正 史	6
向州と思い出	赤 枝 一 弘	7
倉敷昆虫同好会宛寄贈雑誌目録 II		7
会だより		8
編集後記		8

倉敷のコガネムシ相 (1)

小野 洋

The Fauna of Scarabid-beetles of Kurashiki (1)

By Hiroshi Ono

倉敷附近のコガネムシについては未だまとまつた報告はないが、他の昆虫の仲間と同じように、以前よりその分布の調査には努力が続けられて来ており、殊に当地方に同好会が発足して以後は、急速に又強力に推進せられ、新しいものが続々記録されている。これらは既に本誌上に報告されつつあるが、最近若干落着いて来たので、このあたりで今後更に調査を進めるに際しての御参考に供する意味で、ここに現在迄に一応わかっているものから取まとめて報告する次第である。本科の全貌を知り得るにはまだまだほど遠いが、これを基にして、今後同好の諸氏の御協力により順次増補、訂正して行ければ幸である。調査にあたって種々御協力をいただいた同好会の諸氏に心から謝意を表する。

SCARABAEIDAE コガネムシ科

MELOLONTHINAE コフキコガネ亜科

- 1、*Lachnosterna morosa* WATERHOUSE オオクロコガネ
住吉町 (1♀, 1♂, VI-30, 1951) 普通
- 2、*L. Kiotonensis* BRENSKE クロコガネ
鶴形山公園 (I ex, V-22, 1949) 各処に普通
- 3、*L. picea* WATERHOUSE コクロコガネ
黒田 (I ex, VI-3, 1951) : 鶴形山 (I ex, VI-1, 1949) 普通
- 4、*Heptophylla picea* MOTSCHULSKY ナガチャコガネ
小黑田 (I ex, VI-10, 1949) 普通
- 5、*Granida albolineata* MOTSCHULSKY シロスジコガネ
酒津 VII, 比較的多くない。
- 6、*Melolontha frater* ARROW オオコフキコガネ
小黑田 (1♂, VI-19, 1948) : 黒田 (1♀, VII-16, 1951)
殊に丘陵地帯に普通
- 7、*M. japonica* BURMEISTER コフキコガネ
老松町 (1♂, VI-28, 1948) 殊に丘陵地帯に普通

新見市草間町産の蝶二・三について

青野 孝昭

岡山県西北部に位する阿哲峽は、広島県帝釈峽の東方、30 km程に位置する県下の名勝地。青葉と紅葉の頃には訪れるハイカーも多い。その峡谷を抜んだ標高500m前後の高原地帯は藤瀬氏が、すゞむし誌上に記されたミドリシジミ新種の期待される魅力的な地域である。筆者は去る6月23日、小野氏と共に阿哲峽井倉駅より一挙に峡谷を登り、草間町草間を訪れる機会を得た。ここに当日得られた採集品より

面白そうなものを二・三拾つて話して置きたい。

1. *Favonius* sp.

草間 '56 VI 22 1♀ 筆者採

最も期待していたものである。磐瀬氏の一文(すまむし Vol. 3, No. 6)によりヒロオビミドリではないかと想像されるので一応記すが、詳細は次の機会にゆずりたい。ヒロオビミドリと想像した点は次の理由による。

- 1、裏面の白帯はハヤシミドリの如く広くて、オオミドリとは明らかに異なり、
- 2、内縁角の橙黄色紋が、べつたり連続せず、中室側上端でわずかに細く連絡する点はハヤシミドリと明らかに異なる。

カシワ、アベマキ、コナラ等の混雑林の林縁で、アベマキ葉上に静止、水平以下迄翅を開いたところをネットに入れた。その後一時間あまり附近を探索したが、外には一頭も得られなかつた。

2. *Thymelicus sy/vaticus* BREMER ヘリグロチヤバネセセリ

草間 '56 VI 22 5頭 筆者採

横山氏の原色蝶類図鑑によれば、中国山脈では段ヶ峰、伯耆大山にはまれながら記録される程度で、この種の中固地方での発生個体数は少ないらしい。本種は、井倉より草間迄の登りじくざく道の路傍で多く認められ、キマダラでもり~~キマダラ~~、オオチヤバネセセリに混つて活動していた。すまむし誌上に発表された県下の記録は意外にも、南部の平地帯のみで、西大寺市滝ノ口(赤枝)、児島郡タコラ山(松井)、総社市湯井(水野)の三つの記録がある。

3. *Melitaea protomedia* MENETRIES

ウスイロヒヨウモンモドキ

草間 '56 VI 22 1頭 筆者採

朝鮮半島との関連性を持つ特異な分布の故に同好者間の関心を集めている蝶である。伯耆大山を中心とする附近の山々に分布するが、県下では既に、那岐山、後山、蒜山、神庭はで記録されている。草間でも恐らくそれらの記録のうち、県下の南限であろう。次に挙げるヒヨウモンモドキに混つて採集された。

4. *Melitaea phoebe scotosia* BUTLER

ヒヨウモンモドキ

草間 '56 VI 22 2♂ 4♀ 筆者採

県下の記録では勝山町(竹内)、神庭(西村)と、いずれも勝山町のみだが、本種は当日最も普通に見られ、多産することが発見された。

5. *Ypthima motschulskyi* BREMER et GREY

ウラナミジヤノメ

草間 '56 VI 22 3頭 筆者採

県南では調査が行きとどいて、記録も多いが、県北での記録は新見市矢の峰(小野)以外に未だ見ない。当日得られた個体は大體新鮮、ヒメウラナミの方がかえつて少なく、しかもヒメウラナミは破損したものが多かった。

6. *Coenonympha oedippus annulifer* BUTLER

ヒメヒカゲ

草間 '56 VI 22 2頭 筆者採

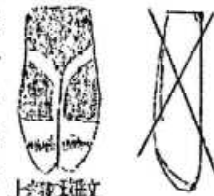
草間産のものについては当日3頭を目撃、うち2頭を採集したがいずれも新鮮なもので傷地、しかも限

られた場所で見受けられた。岡山県下の分布については、小坂氏の岡山県産蝶類目録には簡単に県下一帯但し少数とのみ記されていて詳細な点については分らない。すゞむし誌上には、後山(安東)と神庭(西村)がその産地として紹介されている。

おとしぶみ

タコラ山のメダカカミキリは
ニセアリモドキカミキリ

先に本誌Vol. 3, No. 8に、1952年6月15日にタコラ山で採集した *Stenhomalus* sp. メダカカミキリの1種1ex. について記したが、本個体は結局次記学名の種 *Stenhomalus cleroides* BATES ニセアリモドキカミキリと一先ず誤着いたので、ここに改めて報告しておく。



上翅の斑紋

(小 野 洋)

クロツバメシジミの最終羽化

西大寺でのクロツバメの最終羽化は1954年の記録では9月30日—10月18日(これは卵からの室内飼育)1955年度は2令及終令幼虫の飼育でやはり9月30日に始まり10月16日に5頭いついに羽化して終った。この時期が西大寺に於ける最終発生であろうと思われる。

(赤 枝 一 弘)

西大寺のヒオドジチョウ

念願のヒオドジチョウを専らあろうに金山で4月7日に採取した。本種のような普通種を今まで見つける事が出来なかつたのは不思議であり、しかも金山は僕の足場でありわずか20mほどの丘で、僕はおそらく数十回は登っている。にもかかわらず今まで見る事が出来なかつた。しかも飛び方にも特徴があるから記憶と間違はずがたい。弁解がましいが以上の事から考えてやはり西大寺地方では少いのではないかと思う。なお、新昆虫Vo. 17, No. 2の春日山附近の蝶類を見ると「ヒオドジチョウは未記録種であつたが1952年越冬種を採集している」となつている。やはり本種の少い所もあるのではなからうか。こんな事を書いて後で多数採集したら冷汗物だが、これで西大寺産の蝶は57種になつた。倉敷に産し西大寺附近未記録種はモンキアゲハ。ウスイロオナガシジミ。ウラナミアカシジミ。ウラジ

ロミドリシジミ。ミドリシジミ。ミドリヒヨウモン。クモガタヒヨウモン。ウラギンスジヒヨウモン。スミナガシ。ウラナミシヤノメ。クロヒカゲの11種になつた。

(赤 枝 一 弘)

阿哲咲でヒゲナガゴバネカミキリ
の1種を採集

本年(1956年)5月3日、阿哲咲で昆虫採集会が開催された際、非倉、方谷間の県道で試みた Beating により *Molorchus* sp. ヒゲナガゴバネカミキリの1種1ex. を採集した。この個体は *M. ishiharai* OHBAYASHI カエデヒゲナガゴバネカミキリに極めて近似のものであるが、上翅の斑紋等に若干の相違点が認められる。たとえ本種であるにしても、或は亜種を異にするものであるかも知れないが、個体変異の疑もあるため、今後更に多数の個体が同地域から採集されてみなければわからない。当日、その附近及び他の地域でも殊に注意したが、その後遂にネットに入つて来なかつた。来年の発生期における調査が期待されるところである。末文ながら種々御教示をいたした平田信夫氏に心から厚く御礼申し上げる。



上翅の斑紋

(小 野 洋)

オオムラサキ幼虫を臥牛山で採集

1956年5月5日、高梁市臥牛山に採集を試みた際、本種終令幼虫を1頭得たので報告致します。当日は、総社市総社東中学校科学班10名、理科担任4名、他職科担任2名(筆者を含む)計16名の採集団で押し掛け、華やかにネットを振りました。オオムラサキ幼虫は頂上附近、かつて高梁市街を眼下に見渡していた展望台と近くの若いエノキで発見、更に他の枝を丹念に探しましたが、それ以外には発見出来ず、テンゴチョウの終令幼虫を2頭得たのみでした。

岡山県での本種の分布は中部以北一带に広いものと想像されますが、報告された記録は少ない様で「すゞむし」誌上には安東氏が報告された、英田郡大

原町及び、勝田郡豊並村(那岐山麓)の二ヶ所があるのみようです。

臥牛山にオオムラサキの産することは、1947年7月6日、岡山博物同好会採集会の際、頂上のアベマキ樹上を飛ぶ数頭の本種らしきものを目撃した時以来想像されていましたが、今回の幼虫発見により、確認されたわけです。

採集幼虫の経過を記すと、V. 31, 終令採—V1. 6蛹化—V1. 20羽化(♀)の如くでした。

なお、当日モンキアゲハが比較的頻繁に目撃され、臥牛山にも相当普及していることが観察されました。

※ 小坂和彦：岡山県産蝶類目録(岡山博物同好会会報)

(菅野孝昭)

黒田でウラコマダラシジミ

6月13日(木)にあまりよき天気であつたので、学校の授業が終了しだい黒田に足をむけたが、黒田について1時間ばかりネット振つてウラコマダラシジミ、1尾とウスイロオナガシジミ1尾とキマダラセセリ、オオミドリ、アカシジミなど採集したが、黒田でウラコマダラが採られたと言う話をまだ耳にしてないので一応お知らせします。

ウスイロオナガシジミもあまり多くないのではないかと思う。

(若林正史)

倉敷附近よりミドリシジミの

多産地を発見

日本に産するみどりしじみ属の代表的な普通種でありながら、本種は倉敷地方では極めて稀な珍蝶であり、僅かに児島半島タコラ山より1♂(広瀬1952)、北部福山山系より黒田で1♂1♀(水野1952)福山で1♀(水野1953)の記録があるに過ぎなかつた。

ところが本年に至つて、北部の福山山系で新しく本種の多産地が発見されたので、こゝに報告する次第である。

発見地は福山の北湖山麓、山手村片山であり、同所にお住いの給社市給社東中学校理科主任の風早保男氏の御令息知之君(小学校5年生)により'54年6月11日に初めて発見された。

風早氏より朗報に接し、筆者も6月13日午後5時頃氏の宅を訪れ、同氏及び知之君と共に産生地へ赴き、♂型2♂を得た。現地には小さい溜池が二ヶ所あり、附近は温原を形成、ハンノキの自生木数10本を認めた。

君 の 名 は

美しい人に出会つたとしよう。先づ一番に知りたいのはその人の名前でしょう。'君の名は、と云うことになる。次にあの人のお母さんはどんな人だろう。お住いは、それから彼女のせだけは、ヒップは、ウエストは、バストは、足は、顔はふつくらと風船のように愛らしい、鼻は少しお髷々に似て上を向いているが彼女の未来を予言している。彼女は天国へ行くであろうから。ひとみは、明かなその心をあらわして星の様に美しく輝き、マツ毛は長くその光芒の如く取りまくと云つた具合にロマンチックな恋人の観察はなかなか微に入り細をうがつてするどいものだ。ところでこの雑誌の読者であれば、恋人は虫ではないのですか?(いささか異論のある方もおありと思うが)、分類、系統、分布、形態は前述の様に誰にも、最も興味ある問題と思われる。そして他の昆虫学の基礎をなすものだ。現在の小学校の理科の教科書を見ると戦前のそれと反対に以上の四分科を非常に軽視しているように思われる。児童の興味を中心にしたとおつしやるが、子供も以上の例外ではない。野外へつれて行つてごらん下さい。"この虫なんていうの"と聞くに遠くないからだ。分類偏重も困るが無視されてはたまらない。

9. V. 56. T. T

更に6月14日、好天に恵まれ、小野洋氏を誘い再び同所を尋ね(午前11時頃)、風早氏、知之君と4名で調査、多数の本種を目撃した。当日筆者の採集し得た個体はA型1♀、B型1♀、AB型1♀、O型4♀及び♂である。

同所より東寄りの山手村岡谷にもハンノキの自生地があり、そこでも本種の発生が予想される。いずれにしても、ハンノキの自生地が局部的であり、従って本種の多産地も、局部的となることは否めないであろう。

宗筆ながら、当日、一家挙げて心良く御接待下さった風早氏に紙上より厚くお礼申し上げます。

(青野孝昭)

1956年度黒田のウスイロとウラジロ

今年もウスイロとウラジロは健在なりやと、単身黒田を訪れ、その姿に接し得て、ここに報告する。

1956. VI. 14 午前8時半より30分程黒田の谷を調査。ナラ属植物は更に減少して附近は平ル化の一途をたどる。例年のカシワ自生地にてヒラヒラと飛ぶウラジロ♂♂を目撃2♂をネットに収める。極めて局部的で2本のカシワを根拠地として飛ぶ。更に東隣りのカシワでウスイロ3頭をネットに入れる。以上の場所より100mばかり東方の溜池、北側に自生するカシワ、アベマキ混雑林には両種共姿を認め得ず。又、西方100mばかりの1グルミの群落(附近にカシワあり)でウスイロ1頭を目撃、時間を惜しみながら帰途についた。

(青野孝昭)

ウラキンとウラゴマダラの再記録

岡山県南部では、従来、岡山市北方の金山が唯一の既知産地となっていた両種の蝶も、1952年と1953年に亘つて水野氏により吉備郡稲荷山より記録され、(すゝむしVo. 1, 3, No. 8), その分布の散漫性が、稍明るみに出た。

水野氏の発見された、稲荷山より、本年に至つて再び、両種各1頭が記録されたので、それをここに報告し、稲荷山に於ける両種の再記録としたい。

1956年6月16日(土)総社市総社東中学校科学班で、本年第2回の採集会を大々的に挙行、銀輪を駆つて稲荷山に向う。筆者のみは音楽会の為遅れて単身汽車で高松駅迄行き、かつて、深谷博士の研究室に居られた草谷氏の自転車借りて、稲荷へ直行。途中、帰り掛けた1団(採集団の1部)と会

い、その中、再び引き返して行こうと言う江本、大賀、角田、高杉、平井の諸君と一緒にいる。天候は余り良くなく、小粒の雨がぼつぼつ落ちていますが、稲荷境内に到着したのが午後4時過ぎ。悪天候と植物相の貧弱な為か、昆虫の姿は少なく、稍失望したが、稲荷境内東側、旧ケーブル線と登山道の分岐点付近で、先発団の一名大山君がウラゴマダラ1頭を得たと言う附近を注意深く探索していたところ、濃厚な匂を放つクリの花に静止しているウラキンを目撃、ネットに収めることが出来た。それ以外には熱心な探索にも拘わらず、両種共発見されず、発生数の僅少さが痛感された。

金山、稲荷山共にウラキンとウラゴマダラを産することから共通の食草イボタノキの自生が想像されるが、更に機会を得て、食草の量と両種の発生状態を調査したいものである。

なお、ウラゴマダラシジミは風早氏、ウラキンシジミは筆者が夫々所蔵している。

(青野孝昭)

ウラナミジヤノメを黒田で記録

ウラナミジヤノメは倉敷地方では少ない。筆者は去る6月24日若林君より黒田でウラゴマダラ記録と言うビッグニュースを聞き、早速、同君と共に黒田を訪れ、軽部山の南麓に相当する区域を調査した結果、ウラゴマダラは発見し得なかつたが、ウラナミジヤノメを1頭発見し得たので、報告します。

都窪郡清音村黒田、1956. VI. 24 1頭 筆者採。

参考迄に倉敷地方の既知産地と採集記録を記すと、

児島郡タコ山 1952, VI. 15 1頭
(松井)

清音村軽部山 1952, VI. 17 4頭
(水野)

総社市桜谷 1952, VI. 21 1頭
(水野)

岡山市金山 1952, VI. 22 1頭
清水採... (広瀬)

の蝶で、軽部山北側での発見者水野氏の視測通り、同山南側の黒田でも本種の産することが確認された。又、いずれも採集記録が6月中、下旬に集中している事は面白い。

なお、黒田産の標本は若林君所蔵。

(青野孝昭)

阿哲峽採集記



若 林 正 史

5月8日に阿哲峽で今年第一回の採集会を開いた。ぼくは西総社から乗るので汽車を待っているとき安東さんが来た。汽車の中で安東さんと何かかにか話しているうちに井倉へついた。どんな人が出居して居るだろうかと見ると、でつかいリネツクをしよつた小野さんや友野さんや倉敷西中の生徒などがおりてきた。総勢17人であつた。小野さんが前に出て、我々にあいさつをされた。「多様御出席下さいましてエ——」

採集は井倉から方谷に通ずる道路を中心としてその附近を採集することにした。駅を出発して行つてみると、橋に出たので川へ下りてそこで記念写真を撮した。ずーと河にそつて採集しているとカラスアゲハが採集出来た。今度は道路をさがしていると、西中の生徒がトラフジジミを採集した。サカハチも採集出来た。小野さんと安東さんはピーテングで採集しながらのそり、のそり後の方を来て又河原に下りて採集していると向こうの方でクロアゲハやカラスアゲハやオナガアゲハが10匹ばかりいつべんにパーと飛び立つたので、びっくりして網を無茶く茶にふりまわしたが1匹も取れなかつた。どうしてあんなに飛び立つたのかとその現場へ行つてみたら、西中の生徒が沢山のカラスアゲハを取つて殺すのに困つていた。どうしたのかと聞いてみると、うしのふんのまわりへまつ黒になるぐらいたかつていたのだそうだ。まつたくおもしろいことだ。河がつかたので道路側を採集しているとヘリグロベニカミキリが採集出来た。小野さんや安東さんがあまりおそいのでまつていた。来たので採集品の話をしたら「若い者は先へ先へ行つて沢山取るのー。こりやーぼくも先へ行かにやーおえんわい」と笑つていた。

又ずーと行つていると滝が見えて来た。まつたくきれいだ。自然が作る美には限りが無い。

いつやらこの滝でムカシトンボが採集されたそうだが。滝を見て出て来たら鱧乳洞が思い出されたので行つた。鱧乳洞へ送りがけにカメノコイトウが沢山採集出来た。それから洞穴の近くで植物の風早先生がニシキキンカメ3尾を採集し又洞穴を出てぼくが1尾採集、倉敷西中の生徒が1尾採集して合計4尾である。あまりゆつくりしていると、汽車の時刻におくれるのでいそいで下山し、速足で方谷の方へ歩き出したが、小野さんはそれでもまだしきりにピーテイングをやつて採集しているのでぼくもくやしくなり、捕虫網をピーテイングの代りにしてやり出した。前に行つていた者が汽車の時刻を聞いていたがどうも駅で見た時刻とちがつている。駅で上りと下りを間違えたらしいのである。それで2時間ばかり間が出来たので、ゆつくりピーテイングをしながら行つた。もう駅に近くなつたへんで木をたたいていたら何か飛び立つたのでよく見るとアオバセセリだつたのでいそいで採集した。そうこうしているうちに駅についた。まだ8分ばかり時間があつたので、採集品を見せ合つたり、採集中のおもしろかつた事を話したり、今度の採集会のことなど相談したりした。時間が来たので汽車に乗つて落ちついた。小野さん等の話を聞くと「今日はニシキキンカメでおさえられてしまったな」と片目をつぶつてにがい顔。

今日は天気もよかつたし、まつたく楽しい採集会だつた。今日はぼくがニシキキンカメやアオバセセリを取つて注目のまとなつたため、このような原稿を小野さんに書かされた次第である。

今度の採集会にはふるつて参加しようではありませんか。

随 想

向 州 と 思 い 出



赤 枝 一 弘

向州は吉井川の作った典型的な三角洲である。そして完全な草原をなしている。この向州は西大寺に育つた人にとって幼稚園から高校まである金山と共に忘れる事の出来ない所であろう。鶴音院のそばであり、野球場があり、競技場があり、草相撲が行われ、会場の後の興行が立つのもこゝである。こゝではかつてより数年前西大寺高女が夜間採集を行い天竺に蛾を献上した。その時には多くの蛾が集つたそうだが。しかし現在では僅しの時何白燐光と言う電燈をともしてもアカビロウドコガネ等二、三のコガネムシが集る程度でしかない。それはほどより数年と言う時の流れは向州を変えてしまった。私が小学校へ入つた当時は未だ相当広い笹やぶがあり大人の背ぐらいの笹が繁り、その中には各種のキリギリス類が居た。また北方の岸には数本の楊があつた。その楊で幼かつた私は始めてカブトムシと言う物を見たがそのいかめしい姿が怖しく取らずに帰つた。

それからしばらくたつて昆虫を集め出し、カブトムシがはしくなつた。現在でこそカブトムシは珍らしくないが当時の僕としては非常な珍種であつた。そこで何度もその楊を訪れた。しかし「柳の下に.....」と言う言葉通り二度と見ることは出来

なかつた。このくやしさは芥子山産のカブトムシを友人からもらうまで続いた。この思い出のやぶも、楊の木も戦争後の物の不自由な時に開墾されて畑となりなくなつてしまつた。その他の所も小学生時代には小さい僕等の背より高い草が生えていた。そして少年野球場を作るから草をかつてくれと言われた時に僕等は銀の刃をおりながら毎朝かつた。その野球場は結局出来なかつたが、現在ではそんな大きな草は生えない。その草をかつた時見なれない虫がいるのを取つて帰つて調べて見たらアオカメムシだつた。これが私がカメムシを知つた最初であつた。小学校時代までさかのぼらなくても4~5年前の記録でもヘビトンボとかオ、ヨツボシゴミ等の記録がある。現在でもカンタン等のコオロギの仲間はかなりいるらしいが、いずれにしても昆虫の貧弱な所である。理由は色々有ろうが興行が立つたりしてふみ荒されるし、大水でつかれる。鳥に喰れると色々有ろうがやつぱり人工が加わりすぎたためである。

だんだんと自然の姿の昆虫が減びて行くのは悲しい事である。西大寺のクロツバメ等も古い丸瓦がすたれるとツメレンゲと共に姿を消すのではなからうか。

倉敷昆虫同好会宛寄贈雑誌目録 II

南宇和昆虫同好会会報	別冊	No. 1	1952. 7. 25	南宇和昆虫同好会
"	速報	第1号	1953. 6. 25	"
PINKIRI	6	TULY	1955	京浜昆虫同好会
PINKIRI	No. 8	SEPTEMBER	1955	"
"	No. 9	"	"	"
昆虫科学	2	1956	3. 10.	昆虫団体研究会
ACTA ARACHNOLOGICA	Vo1. XLI, No2	(1953)	26. 7. 30	東亜蜘蛛学会
駿河の昆虫	No. 12	1955	12. 27.	静岡昆虫同好会
"	No. 11	1955	10. 31.	"

Amateur Entomology	Vol. 1, No. 2	1950. 6. 1.	南大阪昆虫同好会
"	Vol. 1 No. 4	1950. 12.	"
"	Vol. II No. 1	1951. 3	"
INSECTS MAGAZINE	No. 24.	1953. 10. 1	小年昆虫会
"	No. 22.	1953. 6. 24	"

会だより

○ 協議会 4月1日

大原農研の害虫部第二研究室で安江先生を囲んで協議会が開かれ、本年度の採集会の開催、会誌の発刊等についての話し合いが行われた。その際机上に山と積まれた菓子類は、またたく間に消化されつくし、すさまじき食欲を示した。

出席者：安江先生、青野、友野、近藤、小野の編集委員諸氏の外、赤枝氏。

○ 第1回採集会 5月8日

阿智峠で本年初の採集会が開かれた。10時に井倉駅を出発、6時過ぎ方谷駅に着く迄の間、峡谷でネットをふつた。まだ種数も個体数も多くなかつたが、ニシキキンカメムシ、ヒゲナガコバネカミキリの1種等若干目ぼしいものも採集出来た。

参加者：青野、赤枝、安東、小野、友野、若林の会員諸氏の外、上田、風早、風宗、剣持、小林、近藤、角田、中村、平井、守屋、中西の諸氏計17名。

○ 第2回採集会 6月10日

8時過ぎ岡山駅前に集合、乗物で南下、狭くなった児島湾を渡って、児島半島の最高峰金甲山を目指した。案外に山が深く、かつ葉樹林が拡がり、オナガアゲハ、イチモンジチヨウもかなり多く見られ、ウラナミシジミも発生していた。そして遂に予想されていたウスイロオナガシジミ、ウラジロミドリシジミも採集された。

参加者：青野、赤枝、安東、小野、小野、友野、若林の会員諸氏の外、上田、江本、風早、風早、小柳、平井の諸氏計18名。

☆ 遠距離で採集会に参加されるのが困難と思われる方にはお知らせをしませんでした。悪しからず

御了承下さいますよう。

編集後記

久方振りのT. T. 氏を始め、御落稿下さった諸氏に厚くお礼申し上げます。太陽の季節を迎え、

「すずむし」も又、羽化することが出来ました。年間の発行回数を少なくしましたので1号1号が本当に可愛くなって来ます。タイピ印刷にしますと、少々無理があるのですが、岡大農生研からの御援助と会員の足の交渉でどうにかやつて行けそうです。

但し、皆様の会費が完納した上でのお話ですので、その点、心当りの方はどうかよろしく申し上げます。

最近の会員の動きはとみに活発化し、力強いものを感じさせます。倉敷市外の黒田からは本年又、期待していた新しい蝶ウラゴマダランジミが新人の若林君によって追加され、倉敷地方産蝶類は59種となりました。

さて、皆様は如何お過ごしでしょうか。今夏の御計画、なにかんずく、7月下旬からの遠征計画は如何ですか。お便りを下さい。そして「すずむし」誌上を飾る原稿も。

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

すずむし 第6巻 第1号 昭和31年7月印刷
昭和31年7月発行

編集兼
発行者 倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所
害虫部研究室内

倉敷昆虫同好会